

LED照明、詳細評価

県工技センター

D製品の性能評価も可能になる。県内のLED関連企業の製品開発や技術向上に弾みをつけたい考えた。

徳島県立工業技術センター(徳島市)は、LED照明などの光学性能を評価する装置2台を新たに導入し、16日から本格運用を始めた。ともに全国の公設機関では珍しい大きさ・機能を備えており、大型化するLED

大型装置 2台導入

全国屈指 明るさ・広がり 測定



昨年7月に県が策定したLEDパレイ構想ネットワークの行動計画の一環。今回導入した装置は、光源の明るさを測定する「全光束測定装置」と、光の広がり具合を測定する「配光測定装置」。購入費は計3630万円。

全光束測定装置は、直径約3層の球体の内部に測定対象の光源を設置し、あらゆる方向に放たれる光を集めてその総量を測るもの。全国の公設試験研究機関に導入されている同種の装置の中で

最大。色温度(光の色合い)や演色性(色の見え方)などの項目も合わせ測定できる。一方の配光測定装置は、全長約4・3層。光源の周りを反射鏡が回転することにより、光の分布を調べる。光源の周囲360度の配光を測定できる装置の導入は、西日本初の公設試験研究機関で初めて。

両装置の導入で、これまで首都圏の研究機関などを受けていた性能評価が、地元で受けられるようになる。コスト負担軽減とともに、こうした高いレベルの性能評価が県内企業の研究・開発にフィードバックされることで、関連企業集積を図る県の「LEDパレイ構想」の推進に一層拍車がかかることが期待される。

利用料は、全光束測定装置が1件につき1方9690円、配光測定装置が2万2840円。県外企業が利用する場合はこの2倍の費用がかかる。関西広域連合の区域内の企業は、県内企業と同額で利用が可能。豊田耕司・県工業技術支援本部長は「信頼性の高い製品作りとスピーディーな市場投入を支援する体制を整備しており、多くの企業に活用していただきたい」と話している。(湯浅翔子)



【上】LED照明の光源の明るさを測定する全光束測定装置【下】光の広がり具合を図る配光測定装置―いずれも県立工業技術センター―